

平成 23 年 3 月 31 日
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
協働推進グループ

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)
ヨコハマ創造都市センター(YCC)
平成22年度 事業報告



平成 22 年度 概況

●ヨコハマ創造都市センター(YCC)について

開館 2 年目となる平成 22 年度は、秋のプロモーションキャンペーン「INVITATION to OPEN YOKOHAMA」や、「国際舞台芸術ミーティング in 横浜(TPAM)」など新規事業がスタートしました。YCCは、この2事業の実行委員会に参画し、「シティプロモーション」や「プラットフォーム形成」「インフォメーション機能の発揮」を目的に取り組みました。昨年度から実施している「関内外 OPEN! 2」は参加団体、来場者、プログラムともに拡大開催し、アートウェブマガジン「ヨコハマ創造界隈」「横浜ローカルツアー」なども毎回好評を得ています。

また北仲スクール公開講座や、STスポット・ダンス公演、「横浜トリエンナーレ学校」など共催事業を通じて多様な創造の担い手と共同し、YCC空間を出会いと交流の場として活用しました。

●アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)について

基幹事業である「相談・コーディネート業務」は、福祉、起業系中間支援団体、医療等、これまで以上に幅広い対象からの相談に対応しました。以前から相談が多い事務所移転については、今年度、新たに休眠不動産物件の再生を支援するオーナー向け助成「芸術不動産リノベーション」を開始。この制度を利用し、今年度中に 3 拠点が創造活動拠点として生まれ変わります。

前述の「国際舞台芸術ミーティング in 横浜(TPAM)」に関しては、「創造界隈連携事業」や「相談・マッチング機能」などの枠組みで関わり、横浜での新規事業の立ち上げに貢献しました。

【事業方針】

- 1、創造の担い手支援
- 2、創造産業集積のための仕組みづくり
- 3、将来の担い手の支援
- 4、創造都市国際レジデンス交流事業
- 5、創造都市プロモーション&インフォメーション
- 6、想像界隈拠点施設および多様な創造の担い手との連携推進
- 7、歴史的建造物空間の有効活用

2. 平成 22 年度 事業実績

(1)創造の担い手支援

助成制度や支援プログラム、相談窓口の運営を通じて、横浜に集う創造の担い手たちが自主的に活動できる環境作りに取り組みました。主に専門家向けの窓口という認知が上がっていることもあり、相談の質は高まっています。不動産、環境、医療、福祉、起業など、芸術と社会の接点の活動をする相談が増えていることは、創造都市の取り組みが浸透している成果と認められます。

①相談・コーディネート業務(ACY)

期 間	通年
場 所	YCC2階 ACYラウンジ
内 容	<p>芸術＋社会の相談内容の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人より海外オーケストラとの連携の相談→主催事業として実施 ・起業家支援財団より創造産業系起業等における相談→随時支援 ・地球温暖化対策室よりイベント、環境系起業より移転の相談→情報提供 ・企業より自社物件活用の相談→検討中 ・横浜市大病院から美術設置の相談→検討中 ・企業より新築マンションとコミュニティとアートの関係について相談→情報提供

②助成事業

●横浜における創造活動助成 先駆的芸術文化活動部門(ACY)

創造性に溢れた先駆的な芸術文化活動に対する助成。今年度は平成21年度のヒヤリングおよび振り返りを踏まえ、よりアーティストに寄り添った制度とするため、交付額について支出の2分の1以内とする制限を廃止して実施しました。しかしながら、申請件数については初の前年度割れ、交付対象事業についても選考委員会にて先駆性の面で厳しい評価を受けた申請が多く、交付額も前年を下回りました。その中でも、継続3年目を迎えた2事業については、事業として着実に進化しており、継続支援終了後も活動が根付くことが期待されます。また舞台芸術企画3件についてはいずれも「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2011」(TPAM)関連企画となるなど、存在感を発揮しました。

■助成額：一活動につき最大100万円以内

■助成実績：総助成額320万円、採択件数7件(申請数63件<前年82件)

平成22年度交付対象事業
<p>1) blanClass 小林晴夫『blanClass + night』</p> <p>かつてBゼミの場となった横浜市南区の住宅を会場に、毎週土曜日の夜、現代美術、現代音楽、詩、モダンダンス、建築、写真など様々な形・ジャンルのゲストを迎えて行なうワンナイト・イベント＋公開インタビュー。</p> <p>■平成22年6月5日～平成23年3月26日の毎週土曜 ■会場：blanClass(横浜市南区)</p> <p>■交付額：40万円</p>
<p>2) Wi!Wi!Wilder! 実行委員会 中野成樹『www2010 特別企画ワイルダーカフェ』</p> <p>ワイルダー作品の公演を連動させた『Wi! Wi! Wilder! 2010』の特別企画として実施される新人演出家発掘企画。公募により若手演出家を選出、急な坂スタジオでワイルダー作品を創作し、発表。</p> <p>■平成22年9月1日～15日、12月 ■会場：急な坂スタジオ</p> <p>■交付額：40万円</p>

3)岩淵貞太『ダンスサイクル 2010-2011』

ダンサー・振付家の岩淵貞太が、コンテンポラリーダンスの在り方や、作品やアーティストと観客とのコミュニケーションを探る年間プロジェクト。今年度は音楽家などを招き、ワークショップや公演を実施。他のジャンルと出会うことで、違った角度からダンスの可能性を模索。

■平成 22 年 6 月～2011 年 2 月:ワークショップ/平成 22 年 10 月 :ダンス公演

■会場:ワークショップ/ 急な坂スタジオ、公演/ST スポット

■継続助成 2 年目/交付額:40 万円

4)寿オルタナティブ・ネットワーク『KOTOBUKI クリエイティブアクション 2010』

アーティストやクリエイター、プロデューサーらをはじめ様々なかたちで文化芸術に携わる活動の担い手たちが、日本三大ドヤ(簡易宿泊所)街のひとつである寿町エリアを舞台として活動する試み。ホステルを活用したギャラリーでの作品展示、アーティスト浦田琴恵が企画するレジデンスプロジェクト「寿合宿」や神奈川大学曽我部昌史研究室によるエリアの再整備計画「寿作戦」、まち歩きツアーなどを通年展開。

■平成 22 年 6 月～ギャラリー展示、「寿作戦」、街歩きツアー、寿合宿ほか ■会場:寿町エリア

■継続助成 3 年目/交付額:40 万円

5)NPO法人 DRIFTERS・INTERNATIONAL『世界の小劇場 ドイツ編』

毎年周年事業国にちなんだ世界の一角に焦点を当て、その国を代表する劇場と連携し、近年高い評価を得た新進気鋭の作家の作品を選抜、世界の演劇の動向をリアルタイムで紹介するシリーズ企画。初回となる今年度は、ドイツ演劇界のイニシアティブをとり続ける劇場 Hobbel Am Ufer の新しい試みを集集し、注目若手作家を紹介。TPAMinYokohama 関連事業。

■平成 23 年 2 月 19 日～27 日 ■会場:神奈川芸術劇場 KAAT

■交付額:50 万円

6)岡崎藝術座 神里雄大『演劇公演「街などない」(日本語・英語字幕付)』

新鋭若手演出家・劇作家として注目を集める神里雄大の新作。「日本の街と、近隣の各国との関係不安について」をテーマにした作品で、より多くの人に舞台芸術を観てもらえる環境づくりとして「日本語・英語字幕付上演」、「高校生以下観劇無料」を実施。 TPAM inYokohama 関連事業。

■ワークショップ 平成 22 年 12 月、公演平成 23 年 2 月■会場:のげシャーレ(横浜にぎわい座)

■交付額:50 万円

7)NPO 法人 Offsite Dance Project『第 3 回ダンスコミュニティ・フォーラム「We dance2011」』

コンテンポラリーダンス活性化を目的とするアーティストが一堂に会するフォーラム。クリエイション、ワークショップ、ショーイング、トークセッションなどを開催。TPAM inYokohama 関連事業。

■ワークショップ(平成 23 年 1 月 15～30 日)、フォーラム(平成 23 年 1 月 15～20 日) ■会場:馬車道大津ギャラリー、YCC 他

■継続助成 3 年目/交付額:60 万円

●アーティスト支援プログラム助成(ACY)

主にNPOが行う、アーティストやクリエイターへの中間支援プログラムに対する助成。昨年度から助成継続で2団体、新たにアーティストと産業部門のマッチングを提案した1団体を対象として決定しました。

■助成額:一件最大 60 万円

■助成実績:総助成額 180 万円、採択件数 3 件(申請数 9 件<前年 12 件)

平成 22 年度交付対象事業
<p>1)河内晋平 『「Studio 仕組」によるアーティスト支援活動の仕組づくり シーズン 3』</p> <p>アイデアがあるのに 1 人では実現出来なかったという、ものづくりに関わる人たちの為に、制作場所の提供や技術面のサポートなどを行い、「ものづくり」や「アーティスト」に関わるあらゆることを支援、プロデュース。改装可能な賃貸アトリエの提供「場所組」、制作や展示発表において必要となる技術(コンピュータープログラム、什器制作、金属加工など)の提供「技術組」、機材の提供「機材組」、研究制作「研究組」を行なう。</p> <p>■ 交付額:60 万円【継続 3 年目】</p>
<p>2)小泉明郎・森弘治・須田真実</p> <p>『Artists' Guild(アーティストズ・ギルド)のシステム強化と、効果的な運営の実現』</p> <p>「アーティストのアーティストによるアーティストのため」の芸術支援システム。制作・展示に必要な機材を共同所有し、それらの機材を安価で会員に提供することで、制作・展示現場での経済的負担を軽減、制作環境を改善。クオリティーの高い芸術作品を社会に出すことで、アーティスト活動が日本の文化を活性化し社会を明るくし、アーティストの人生に夢を取り戻すことを目的に活動。</p> <p>■ 交付額:80 万円【継続 2 年目】</p>
<p>3) 柏原寛 『OPEN FACTORY TOUR BUREAU(オープンファクトリー・ツアー・ビューロー)』</p> <p>アーティストを対象にした企業見学ツアーを企画・実施。アーティストと横浜企業に対し「見学ツアー」を入り口とした相互交流の場を提供し、相互の不足部分を補う関係に結びつけることを目指した「製造産業」を「創造産業」に変換させていくための試み。横浜の産業全体がアーティストの「引き出し」となるために、市内のアーティストへの「技術・ナレッジサポート」体制を整備。</p> <p>■ 交付額:40 万円【新規】</p>

③講座・シンポジウム(ACY)

アーティストやクリエイター、アートNPOに活動に必要な実務講座を実施。

【講座1】

名 称	ACY アーティスト・アート NPO 向け講座「わかる助成金！実践編」
日 時	平成 22 年 8 月 25 日(水)
会 場	ヨコハマ創造都市センター(YCC)3Fスペース
内 容	<p>“目に留まる”申請書の書き方とは？</p> <p>助成金とは何か、どのような助成金を選択すべきか等の助成金の基礎的知識を学ぶとともに、審査員の目にとまる申請書の書き方を、実際に申請書を書きながら身につける実践型の講座を実施。</p> <p>・講師:若林朋子(社団法人企業メセナ協議会)</p> <p>・参加者数:15 名</p>

【講座2】

名 称	平成 23 年度横浜市における芸術・文化・観光に関わる助成事業説明会
日 時	平成 23 年 3 月 7 日(月)
会 場	ヨコハマ創造都市センター(YCC)3Fスペース
内 容	平成 23 年度の ACY 助成事業の募集にあたり、助成事業説明会(質疑応答あり)を開催。ACY で行う助成のほかにぎわい創出、観光促進等を目的とした横浜市関連局の助成制度の情報も提供。 ■参加者数: 48 名

④アートデータバンク(ACY)

期 間	通年
内 容	データベース(=登録手続きの簡素化、検索機能等の利用者の利便性向上)による運用をスタート。またアーティスト情報の充実のため、アーカイブデータベース化とそれに伴う LOD 導入について、財団広報マーケティンググループ、横浜市民ギャラリーあざみ野と共同で検討を開始。アーカイブの運用と LOD の導入については 23 年度中に引き続き検討と実現を目指す。 ■登録件数: 96 件

(2)創造産業集積のための仕組みづくり

アーティストやクリエイターの横浜集積を促進。今年度より、物件の需要側(クリエイター)への助成に加え、供給側(オーナー)への助成制度も始めました。これにより、大きな成果を得ることができました。また、「横浜における創造的活動助成『企業・団体による創造的事業部門』」は、地場の創造産業に目を向けた制度としてリニューアルし、良い案件の引き出しに成功しています。これらの流れは、次年度に継続していきます。

あわせて、集積に創造産業が活性化する仕組みの確立については未だ課題があるため、横浜におけるアートビジネス成立の可能性の検証を目的とするプロジェクトを実施しました。

①芸術不動産リノベーション助成(ACY)

今年度より新たに実施。都心部の活性化、創造産業の振興を図るため、関内・関外の既存民間建築物で、新たにアーティスト、クリエイター等の活動拠点に整備・転用することにより、その活動を支援するビル改修に対する助成を交付しました。

今年は、運用開始 1 年目として、交付 3 件で 31 スタジオの場所を設置したことは評価しています。審査員から、活動報告の定期的な実施など、ソフト運用面でのサポートを求める指摘があり、それらについては、今年度の交付者から早速実施します。

■募集期間:平成 22 年 6 月 14 日～平成 23 年 1 月 31 日(随時先着審査)

■助成実績:総助成金額 18,654,147 円(予定)、採択件数 3 件/申請件数 3 件

<p>1. 宇徳ビルヨンカイ</p> <p>申請者: 株式会社宇徳</p> <p>申請内容: 714 m² / 14 組のアーティスト、クリエイターのスタジオの拠点形成。</p> <p>住所: 横浜市中区弁天通(関内エリア)</p>
<p>2. 長者町アートプラネット</p> <p>申請者: 有限会社日本ワールド開発、特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター</p> <p>申請内容: 457 m² / 9 組のアーティスト、クリエイターのスタジオ、短期レジデンスの拠点形成</p> <p>住所: 横浜市中区長者町(関外エリア)</p>
<p>3. 八〇〇中心</p> <p>申請者: 有限会社オンデザインパートナーズ</p> <p>申請内容: 150 m² / 8 組のアーティスト、クリエイターのスタジオの拠点形成</p> <p>住所: 横浜市中区山下町(中華街エリア)</p>

②芸術不動産モデル事業(ACY)

アーティスト、クリエイターの拠点増加を目的に、オーナーからの申し出を支援する形で所有物件の調査や公募などを行う事業。民設民営型の創造拠点を官民協働で考える仕組み。建築や商業の専門家などと連携して行っています。

■期間: 平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

■調査対象物件数: 8 軒

■事業化: 3 軒(公募事業化 1 軒、入居支援 1 軒、調査研究中 1 軒)

③アートマーケット事業(ACY)

名 称	ヨコハマ・フォトマーケット
日 時	平成 23 年 2 月 3 日(木)～6 日(日)
会 場	ヨコハマ創造都市センター 1F ホール
内 容	<p>写真のふるさと・横浜のブランドを背景にし、写真における現代美術のマーケット形成を実験的に行う事業。一家に一枚をテーマに、気軽に美術作品を所有する機会を提供した。入場料 500 円。高校生以下無料</p> <p>出展作家: チェン・ウェイ、鈴木理策、北野謙、緒方範人ほか、31 名</p> <p>横浜フォトフェスティバルのポートフォリオレビュー作家、ギャラリー推薦の若手作家など: 78 点</p>
事業成果	入場者数: 484 名、作品販売 3 点
協働主体	<p>企画運営: PH4+(フォトコレクティングの会)</p> <p>監修: 横浜フォトフェスティバル実行委員会</p>

④横浜における創造活動助成「企業・団体による創造的事業部門」(ACY)

企業または団体が、創造産業分野と連携し、新産業の創出、都市の課題解決などに取り組む事業に助成金を交付しました。

本助成事業は昨年度、横浜市からACYに移管し迎えた2年目です。主な変更点として、対象エリアを都心部から全市域に拡大し、商店会、NPO、任意団体等も申請できる枠組みへと変更し、さらに地域資源を活かす仕組みとしました。結果、郊外部の地場企業、商店会が関わる事業が増え、NPOと都心部の地元起業が連携する事業も新たに対象となりました。内容は、企業のCSRの提案、地域型SPAによるものづくりの提案、横浜の食のブランディングと国際交流、ITを使った観光産業など、多彩なプログラムを実施していただきました。1月には、さらなるネットワークの構築、公開プレゼンテーションの機会を設けました。

■募集期間:平成22年3月1日～4月30日

■助成実績:総助成額 4,700,000円、採択件数 6件(申請数 12件/前年 4件)

平成22年度交付対象事業
<p>1) 特定非営利活動法人インターナショナル <共同申請者:株式会社 大川印刷> 『おいしい観光都市プロジェクト 横浜から世界へ! 食材ピクトグラムでつくる国際標準の食の安心』</p> <p>NPO、インターン大学生、市内企業、デザイナーが連携。APECを舞台に食に関するデザインの国際規格確立に挑戦するプロジェクト。調査、実証実験、飲食店舗への提案、ブックレット制作。</p> <p>■実施時期:通年/交付額:100万円</p>
<p>2) 有限会社 スタジオニブロール 『ニブロール・メイド・イン・ヨコハマ 2010』</p> <p>市内ファッションデザイン企業による新しい横浜のブランド作りを目指した商品開発、プロモーション事業。地元企業との素材開発、見本市への出展、カタログ作成等</p> <p>■実施時期:通年/交付額:70万円</p>
<p>3) 株式会社オルカプロダクション 『横浜観光ガイドアプリケーションの開発と観光資源のデータベース化(横浜山下公園周辺版)』</p> <p>市内のIT企業から新たな観光資源の構築を提案。観光情報の多言語対応や地元ガイドの知識のデータベース化など、地域情報の基盤整備の一助ともする事業。</p> <p>■実施時期:平成22年7月、ソフトウェア販売開始:平成22年10月~/交付額:100万円</p>
<p>4) 株式会社 ファンケル <共同申請者:中央宣興株式会社> 『YOKOHAMA save the water プロジェクト 地域活性化を目的とした市民参加型イベント「横浜ウォーターキャンドル」』</p> <p>創造都市の企業ネットワークが行った公募プログラムで、(株)ファンケルが採用した「スタジオゲンクマガイ」の企画監修による水をテーマにしたワークショップ、イベント型事業。親子で水の大切さを学ぶ機会の提供。</p> <p>■平成22年9月25日実施/交付額:50万円</p>

5)株式会社 キクシマ 『第1回 木とふれあう遊具 コンテスト』

市内企業による遊具コンペティション。全提案書を一般公開にて審査。受賞作品の中から優秀作品を製品化し、再び一般公開の後に、保育園に寄贈。

■実施時期:平成22年5月~11月/交付額:100万円

6)Hama Boom Boom!プロジェクト**『新横浜 Honey Field Project 緑とミツバチで街の創造力をひきだすプロジェクト』**

任意団体による養蜂を通じたコミュニティ形成事業。新横浜での市民メンバーによる飼育と、一般を対象にした採蜜イベントを軸に、町内会と連携した商品開発企画も行う。

■実施時期:通年/交付額:50万円

⑤クリエイター・アーティストのための事務所等開設支援助成(ACY)

都心部の活性化、創造産業の振興を図るため、区内・区外の既存民間建築物にアーティスト、クリエイターが移転する際に助成を交付しました。

3年連続で申請総額が助成金予算額を上回り、今年は、過去最高を記録しています。今年の特徴として、面積が増えてきたこと、芸術不動産リノベーション助成と連動した集積ビルからの申請があったことが上げられます。また、映像、グラフィックといった創造産業分野も昨年に引き続きあります。課題としては、市外移転者の割合が25%と低いことです。今後はさらに芸術不動産リノベーション助成との連動により、新たなコーディネーターの誘致などを狙います。

■募集期間:平成22年4月1日~平成23年1月14日

■助成実績:総助成額 6,871,000円、採択件数16件(申請数16件/前年17件)

平成22年度交付実績			
交付者名		ジャンル/進出地域	m ² 数
日原史絵	個人	音楽/南区	24.70 m ²
映像グループ ローポジション 飯田基晴	個人	映像制作/中区	44.15 m ²
株式会社ブンブンフィルム 志村健太郎	法人	美術、映像制作/中区	89.34 m ²
NOGAN 茂木隆宏	個人	デザイン/中区	52.85 m ²
佐藤理咲	個人	美術/中区	52 m ²
曾谷朝絵	個人	美術/中区	46 m ²
両見英世	個人	デザイン/中区	14.64 m ²
中村高寛	個人	映像制作/中区	11.60 m ²

Far East Contemporaries 金島隆弘	個人	ディレクター／中区	32.24 m ²
株式会社オルカプロダクション 北沢至	法人	WEBデザイン／中区	107.43 m ²
川野恭子	個人	写真／中区	13.76 m ²
ASD 田島隆志	個人	構造設計／中区	17.16 m ²
エーテルスタジオ 片方 聡	個人	建築／中区	33.84 m ²
大見明子	個人	映像制作／中区	18.634 m ²
今井嘉江	個人	ディレクター／中区	47.83 m ²
似て非ワークス	法人	美術、舞台芸術／中区	128.74 m ²

⑥横浜ランデヴープロジェクト(YCC)

地域企業の専門性とクリエイターの持つ自由な発想を融合させて、新しい商品を作るモノづくりのプロジェクト。横浜市が主体となり実施した本事業については、実行委員会の事務局を担い、主に出納事務を行いました。

(3)将来の担い手の支援

将来の創造の担い手となる若い人材の活動支援を行いました。

① 卒業制作展広報支援(ACY)

卒業展覧会サポート 2011	
実施期間	平成 23 年 1 月～3 月
内 容	<p>創造界限エリアで開催される美術系の大学・専門学校の修了生が行う卒業制作展の広報支援および教育機関とのネットワーク形成を目的に、開催情報を集約したポスター、フライヤー、ウェブサイトを設置。今年度はガイド機能の向上のため担当教官による PR コメントを提供。また、YCC1F エントランスのインフォメーションスペースを活用し、インフォメーションコーナーを設け、常時情報を入手できるサービスを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加校数: 25 団体 ・ポスター部数: 100 枚、リーフレット部数: 10,000 枚 ・配布先総数: 横浜市創造界限拠点を中心に市内・都内約 300 ヲ所

② インターン支援(ACY)

実務実習を通じて創造都市への理解を深めてもらうと共に、将来のキャリア形成に対する意識を高めてもらうことを目的に、創造界隈で行われる事業にてインターン生の受け入れを行いました。

受入事業①	夏休み子どもアドベンチャー2010
業務内容	夏休み子どもアドベンチャー2010 事業制作補佐 (広報作業、イベント実施準備、当日運営等)
期 間	平成 22 年 8 月 18 日 (水)、19 日(木)
受入数	3 名

受入事業②	関内外 OPEN! 2
業務内容	関内外 OPEN! 事業制作補佐 (広報作業、クリエイターへのインタビュー、ツアーアテンド等)
期 間	平成 22 年 8 月 30 日(月)~9 月 12 日(日)
受入数	10 名

(4)海外連携 - アーティスト・イン・レジデンス事業

創造都市国際レジデンス事業(ACY)

アジアと軸としたレジデンス事業を BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、Far East Contemporaries の 3 つの団体と展開しました。急な坂スタジオは、TPAM「国際芸術ミーティング in 横浜」の開催期間中に実施する事業について共催しました。

事業①	台北市・横浜市アーティスト交流プログラム 2010
主 体	BankART1929
期 間	派遣:平成 23 年 1 月~3 月、受入:平成 23 年 2 月~4 月(*3 月下旬に中断)
会 場	BankART Studio NYK、台北国際芸術村
内 容	台北派遣作家:伊佐治雄悟、来日作家:イー・ホエイ 滞在制作の後、展覧会やオープンスタジオを実施予定でしたが、 震災の影響により来日作家は、3 月下旬に帰国。次年度に再開予定。

事業②	横浜市・北京市アーティスト・イン・レジデンス交流事業
主 体	Far East Contemporaries(FEC)
期 間	平成 23 年 1 月 6 日(木)~3 月 20 日(日)(展覧会中止期間含まず)
会 場	ヨコハマ創造都市センター 3F スペース
内 容	北京から、陳維(チェン・ウェイ)を招聘。横浜に約 3 ヶ月間滞在し、アーティストとの交流やリサーチ、新作制作に取り組みました。成果発表として展覧会を開催する予定でしたが、来日作家が、3 月中旬に帰国したため次年度に延期予

	定。
--	----

事業③	急な坂スタジオ国際交流レジデンス事業『Home Sweet Home』
主 体	急な坂スタジオ(NPO 法人アートプラットフォーム)
期 間	平成 23 年 2 月 18 日(金)~2 月 20 日(日)
会 場	BankART Studio NYK
内 容	イギリス出身のアーティストユニット Subject to_Change より 2006 年にスタートした「Home Sweet Home」を横浜の街を題材に実践。暮らす街の地図が描かれたキャンバスに、各自が自由にデコレーションした家を置く。自分だけの家を建て、住みやすい街づくりを目指すアート体験を参加者の日常生活にフィードバックされることを狙う。【TPAM in YOKOHAMA2011 海外ショーケース参加】

事業④	タイ・チェンマイとのアーティスト・イン・レジデンス交流事業
主 体	NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター
期 間	平成 23 年 2 月 1 日(火)~3 月 31 日(木)(*3 月下旬に中断)
会 場	黄金町エリアマネジメントセンター内スタジオ
内 容	ローカルコミュニティやマイノリティとの交流を通して作品を制作するサンティパー・インコン=ガム氏を横浜に招へい。黄金町にて、地域コミュニティに関する調査を行い、作品またはワークショッププランの提出を行う。制作活動やトークイベントなど実施した。成果発表を行う予定でしたが、震災の影響により、来日作家が帰国したため、次年度に延期予定。

(5) 創造都市プロモーション&インフォメーション

① 関内外 OPEN! 2 “日常を変える48の創造力と出会う。”(YCC)

日 時	平成 22 年 9 月 11 日(土)、12 日(日)
内 容	横浜の関内・関外エリアにオフィスやアトリエを構える建築家やデザイナー、アーティスト等の創造の担い手が主体となって、期間限定で自らのスタジオを一般に公開。本事業を通じて、市民に普段は見ることのできない創造の現場に触れる機会を提供するとともに、同エリアに集積する創造の担い手間のネットワークを形成した。8つのコースからなるツアーと交流会、各種イベントを行い、運営やツアーガイドには学生インターンが主体となって取り組んだ。 【来場者数:延べ 1380 名、参加団体数:48 団体、インターン数:10 名】
協働主体	主催:関内外OPEN!2 連絡協議会 協力:BankART1929、BOAT PEOPOLE Association、黄金町エリアマネジメントセンター、国際コンテナターミナル株式会社、ホステル・ポルト・ヨコハマ、有限会社本町ビル、森ビル株式会社、株式会社八桶、ほか

②横浜ローカルツアー(YCC)

横浜の「ローカル」な「ひと」や「コト」を紹介し、横浜の地域資源を再発見するツアー。新たな視点で楽しく市民が横浜の魅力を再認識する機会を提供しました。横浜市職員を対象としたツアーも実施し、創造都市の取り組みの組織内広報に力を入れました。

実施日	内容
平成 22 年 7 月 25 日(日)	Vol.9 L コース「元町ショッピングストリート」 講師:近澤弘明(株式会社近沢レース店 代表取締役社長) 櫻井 淳(櫻井淳計画工房 代表取締役) 【参加費:2000 円/参加数:26 名】
8 月 24 日(火)	Vol.10 キッズコース 「カメラマンと一緒に古い写真の現在をめぐろう！」 講師:笠木靖之(フリーカメラマン) 【参加費:1500 円/参加数:5 名】
9 月 13 日(月)	Vol.11 M コース 「横浜ローカルツアー×ジャズプロ "横濱 JAZZ クラブツアー"」 講師:柴田浩一(横濱 JAZZ プロムナードディレクター) 【参加費:4000 円/参加数:30 名】
9 月 25 日(土)	Vol.12 G コース再び!「みなとみらい線 デザイン探訪の旅」 講師:高木一行(横浜高速鉄道株式会社) 【参加費:1000 円/高校生以下 700 円 参加数:17 名】
11 月 27 日(土)	Vol.13 N コース「モードを支える横浜のモノづくり」 講師:矢内原充志(ニブロール デザイナー) 【参加費:1200 円/参加者数:12 名】
平成 23 年 2 月 15 日(火)	Vol.14 O コース「TPAM in Y ヨコハマバスツアー」 対象:国際舞台芸術ミーティング参加の外国人ディレクター 講師:仲原正治(横浜市)、平野真弓(黄金町エリアマネジメントセンター) 【参加費:1000 円/参加者数:15 名】

■横浜市職員向けコース概要

平成 22 年 5 月 25 日(火) 10 月 7 日(木)	J コース「クリエイティブシティなんて知らない!? 横浜市職員のための創造界隈拠点ツアー」 【参加費:無料/参加数:計 46 名】
6 月 30 日(水)	K コース「横浜市の挑戦～アーバンデザイン、そしてクリエイティブシティを巡る」 対象:横浜市人事交流職員(他自治体、企業) 【参加費:無料/参加者数:43 名】

③ YCCセミナー(YCC)

「創造性」、「地域資源」、「コミュニケーション」をキーワードに、全国的に話題を呼んでいるプロジェクトの実践者を講師として招き、具体的な取り組みを紹介。

今年度は海外にも目を向け、横浜みなとみらいホールにて来日公演を行った独オーケストラによる社会への取り組みについて紹介するとともに同楽団員による横浜市内の福祉施設でのアウトリーチ・コンサート(ACY 相談窓口における相談案件)も実施しました。

<YCC セミナー>

実施日	内容
平成 22 年 7 月 24 日(土)	<p>「写真の町 北海道上川郡・東川町」 【講師】松岡 市郎(東川町長) 1985 年、写真文化によって町づくりや生活づくり、そして人づくりを行うことを目指した「写真の町」宣言を行った北海道東川町より、国際写真フェスティバルや「写真甲子園」など、世界的に有名な取り組みを紹介。 ■参加者数:30 名</p>
11 月 26 日(金)	<p>「オーケストラと地域社会 ～ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団『未来ラボ』の事例を通して～」 【講師】アルバート・シュミット(同管弦楽団事務総長) 欧音楽界において確固たる地位を築き、社会貢献プログラムでも先進的な活動が目目されているドイツ・カンマーフィル管弦楽団について、プレーメン東総合学校を舞台に展開する「未来ラボ」の事例を紹介。 ■参加者数:南区「たすけあいゆい」アウトリーチコンサート:約 50 名 講演会:35 名</p>
平成 23 年 3 月 14 日(月)	<p>「中村ブレイス株式会社～石見(いわみ)銀山から世界へ、幸福の発信」 【講師】中村俊郎(中村ブレイス株式会社代表取締役社長) ※震災のため中止</p>

④創造都市交流セミナー

事業名	横浜市創造都市交流セミナー/マッシュアップミーティング in TPAM 「クリエイティビティと都市の可能性ーポートランド“PICA”の事例をもとに」
実施日時	平成 23 年 2 月 20 日(日)14:00～15:00
会場	ヨコハマ創造都市センター(YCC)1Fホール
内容	<p>【出演】エリン・ボバーク・ダートン(PICAディレクター)、倉田直道(工学院大学建築都市デザイン科教授)、曾我部昌史(神奈川大学工学部建築学科教授)、佐藤澄子(クリエイティブディレクター) ・米国オレゴン州ポートランドの中間支援組織「PICA」ディレクターを招聘し</p>

	<p>でのセミナー。都市空間を活用し、アートを通じたコミュニティの形成を目指す「PICA」のビジョンと軌跡を紹介。後半は横浜の関係者やポートランドの実情に詳しい専門家を交えて、ポートランド、横浜両都市の将来を語った。</p> <p>■入場者数:約 60 名</p>
--	--

⑤媒体・ツール制作

1) アートウェブマガジン ヨコハマ創造界隈(YCC・ACY 共管) http://www.yaf.or.jp/yccmag/	
実施時期	<p>通年(偶数月更新)</p> <p>Vol.5(4月)、Vol.6(6月)、Vol.7(8月)、Vol.8(10月)、Vol.9(12月)、Vol.10(2月)</p>
	<p>横浜では数少ない編集を加えた読み物媒体として、創造界隈の情報を発信。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Yokohama Creative People(インタビュー) (横浜で活躍するアーティストやディレクターを紹介) ・VIA YOKOHAMA(横浜美術館主席学芸員・天野太郎コラム) ・ヨコハマ創造不動産(建築家・佐々木達郎コラム) ・アート caféめぐり(ユニット・Yokohama Creative Mapによる街紹介コラム) ・What's Up!イベント紹介(これから行われるお勧めイベント情報) ・Catch Up!イベントレポート(終了イベントの実施レポート) <p>■アクセス数:年間平均約 3000 ページビュー</p>

2) TPAM × ACY コラボレーション 横浜マップ(ACY)	
実施時期	平成 23 年 1 月～2 月
	<p>国際舞台芸術ミーティング in 横浜(TPAM in Yokohama)に合わせ、TPAM 開催告知と横浜ガイドマップを兼ねた公式媒体を制作。市内外の文化施設、海外の舞台芸術見本市、TPAM in Yokohama2010 会場および関係する舞台芸公演に配布。</p> <p>■制作部数:5 万部、■配布先:約 200 箇所</p>

3) TPAM プレゼンテーションブース出展(YCC・ACY 共管)	
実施時期	平成 23 年 2 月 16 日(水)～2 月 19 日(土)
	<p>TPAM in YOKOHAMA が主催するブースプレゼンテーションに YCC として事業紹介ブースを出展。クリエイティブシティ・ヨコハマ、ACY および YCC について事業 PR を実施。</p>

4) アート&カルチャー・ヨコハママップ 2010(ACY)	
実施時期	平成 22 年 8 月発行、以降配布
	<p>横浜都心部のアートスペース、美術館・博物館、民間ギャラリー、ライブスポット、映画館、認定歴史的建造物を網羅したカルチャーマップ。ガイド性を高めるため専門ライターにより民間ギャラリー・ライブスポットにジャンル紹介コメントを付加。</p> <p>【日英バイリンガル】</p>

	■発行部数:5万部、■配布:文化施設、アートスペース、市役所、鉄道沿線等
--	--------------------------------------

④創造界限インフォメーション(YCC・ACY 共管)

1)創造界限インフォメーションボード(YCC・ACY 共管)	
実施時期	平成22年8月設置、以降通年運営
	YCC1階スペース屋内の壁面を利用し、手書きのインフォメーションボードを設置し、想像界限近隣のイベント情報を提供。「INVITATION to OPEN Yokohama2010」や卒展支援などのテーマに合わせた特集などを実施。

2)YCC メールニュース(月2回発行)(YCC)	
実施時期	通年(月2回配信)
	YCCの主催・共催事業のほか、想像界限拠点施設やACYのアーティスト支援に関する情報を定期配信。 ■登録者数:約2000名

3)バイリンガル対応	
YCCおよびACYの制作媒体について、順次日英バイリンガル化を実施。 ・YCC+ACY施設パンフレットの日英バイリンガル対応(YCC・ACY 共管) ・YCCウェブサイトの日英バイリンガル対応(アクセス、事業内容等一部)(YCC) ・ACYマップ(アート&カルチャー・ヨコハママップ)(ACY) ・TPAM×ACYコラボレーション横浜ガイドマップ(ACY)	

⑤オープンラウンジ(YCC・ACY 共管)

1)書籍開架

横浜の都市発展の歴史やクリエイティブシティの取り組みに関する書籍をはじめ、トラベルガイド、芸術、建築、国内外のアートプロジェクトに関連する書籍を無料開架しました。

2)OPEN YOKOHAMA インフォメーション

INVITATION to OPEN YOKOHAMA インフォメーションデスク	
実施	平成22年9月～11月
内容	横浜の街をイベントでつなぎ新しい魅力を紹介するキャンペーン「Invitation to Open Yokohama2010」の期間中、キャンペーンのインフォメーションデスク機能、象の鼻テラス主催の街あるきイベント「聞き耳プロジェクト」の受付窓口機能を担った。

(6)創造界限拠点施設および多様な創造の担い手との連携推進(YCC)

1)実行委員会等への参画

① TPAM in YOKOHAMA 実行委員会 参画

実施	平成 23 年 2 月 16 日(水)～2 月 20 日(日)
内容	創造界限拠点が一堂に参画する国際舞台芸術ミーティング in 横浜実行委員会に参画し、国内外の舞台芸術関係者が横浜に集う機会として、創造都市交流セミナーやプロモーション事業など、YCC 独自の取り組みを実施。また TPAM in Yokohama に先立ち、事務局を担う国際舞台芸術センター(PARC)と共催にて、「舞台芸術セミナー マッシュアップミーティング」を定例開催。

②Open Yokohama 実行委員会 事務局

実施時期	平成 22 年 9 月 10 日(金)～11 月 3 日(水・祝)
内 容	都心部を中心に、アート・文化・歴史・食など 200 を超えるさまざまなイベントやスポットを、まち歩きで楽しむことを提案する都市プロモーション事業「INVITATION to OPEN YOKOHAMA」(Open Yokohama 実行委員会)の事務局として事業を推進。

③ 横濱ジャズプロムナード実行委員会 事務局

実施時期	平成 22 年 10 月 9 日(土)、10 日(日)※フェスティバル実施日
内 容	「街全体をステージに」をコンセプトにスタートし、18 回目を迎え日本最大規模のジャズ・フェスティバルに成長した「横濱 JAZZ PROMENADE 2010」(主催:横濱 JAZZ PROMENADE 実行委員会、共催:横浜市 APEC・創造都市事業本部)の事務局を担い、103,000 人の来場者を達成。また今年は、象の鼻パークでの街角ライブなど、創造界限や港湾地区での賑わい創出に貢献。 ■開催地:みなとみらい、桜木町、関内、馬車道、元町・中華街駅エリアほか 全 49 会場

2)共催・パートナー事業(YCC)

YCC のミッションである「文化芸術—産業振興—まちづくり」三部門の連関を導き、人々が出会い交流と創造が生まれる場として、様々な主体による活動を受け入れました。

①講座・セミナー型事業

- ・北仲スクール公開講座(横浜文化創造都市スクール)
- ・舞台芸術セミナー マッシュアップ・ミーティング(NPO法人国際舞台芸術交流センター)
- ・NEXT! イマジン・ヨコハマ キックオフワークショップ(NEXT! イマジン・ヨコハマ)
- ・若者による市民活動の広報支援プロジェクト(NPO 法人アクションポート横浜)
- ・クリエイティブサロン アート de コミュニティビジネス(NPO 法人アクションポート横浜)
- ・横浜写真アーカイブ協議会
- ・創造都市政策セミナー(文化庁、NPO法人都市文化創造機構) ほか

②公演型事業

- ・『デザインの価値観くちから> デザインの日々の生活に-』(女子美術大学・武蔵野美術大学)
- ・『ドリフターズサマースクール&公演「アンバランス色素ルーシー」』
(NPO 法人ドリフターズ・インターナショナル)
- ・『難聴のパール/Night in June』(NPO 法人STスポット)
- ・『坂あがりスカラシップ 2010 関連企画
「マームとジブシーvs.モモンガ・コンプレックス決戦! エアーバレーボール!!!」』
(NPO 法人アートプラットホーム)
- ・『横浜歴史的建造物ランチコンサート』(柴田音楽事務所)

5)プラットフォーム運営支援

①芸術文化教育プラットフォーム

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局に参画するとともに、小学校の現場でプログラムを実施するコーディネーターとして10校を担当し、横浜における子どものための芸術文化教育の推進を行いました。

②東アジア公的中间支援団体交流

アジアの諸都市、団体と積極的に交流。今年度は、韓国のインチョン文化財団と包括的事業連携に関するパートナーシップ協定を締結しました。

③文化芸術による地域づくり事業事務局

横浜市内各地で地域に根ざし、歴史や自然・街並みなどの豊かな地域資源の魅力を活かしたアート活動を実施する団体、アートの力で地域コミュニティの活性化を図る団体を募集。助成金交付や広報支援、傘下団体のネットワーク化など様々な側面から各団体の事業実現をサポート。(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団と横浜市市民局の連携事業)

■フェスティバル部門「横浜アートサイト 2010」

■コミュニティ部門「コミュニティ+アート」

(7)歴史的建造物内スペースの有効活用(YCC)

横浜を代表する歴史的建造物としての空間特性を活かし、市民が建物に親しみ、アートに触れることのできる企画を実施しました。

1)夏休み子どもアドベンチャー2010「YCC カフェでフードアーティストと遊ぼう!」

実施日時	平成22年8月18日(水)、19日(木)
------	----------------------

会場	ヨコハマ創造都市センター1Fホール
内容	夏休みを体験学習等の一機会とし、市内在住・在学の小・中学生等を対象に、さまざまな仕事を見学・体験できるイベントの一環として開催。YCC では地元食材で人気のカフェ「YCC Cafe×80*80」を舞台に、フードアーティストと一緒に地元の食べものの面白さが見えてくる「食とアートのワークショップ」を実施。 ■参加費:100円おいしいおやつ付き ■参加数:40名(定員40名)

2)横浜バロック室内合奏団コンサート 2010 馬車道まつり協賛企画

実施日時	平成22年10月31日(日)
会場	ヨコハマ創造都市センター1Fホール
内容	地元である馬車道商店街による「馬車道祭り」との連携事業として実施。馬車道を拠点に活動する小笠原伸子氏主宰の横浜バロック室内合奏団により、ヴィヴァルディの「四季」をはじめ、バロックの名曲の数々を堪能。 ■料金:2,000円 ■入場者数:110名

3)クラシックヨコハマサロンコンサート@YCC 市原愛ソプラノリサイタル

実施日時	平成22年11月20日(土)
会場	ヨコハマ創造都市センター1階ホール
内容	全日本学生音楽コンクール本選が横浜で実施されるに際し、同コンクールの過去の優勝者、市原愛氏によるソプラノリサイタルを実施。同氏は、横浜市出身で、小澤征爾と共演、ドイツ・アウグスブルク歌劇場ソリストを務めるなど、ヨーロッパを中心に活躍を続けている若手ソプラノ歌手であり、観客の中には今回初めてYCCを訪れたという方も多くみられた。 ■料金:1,000円 ■入場者数:112名

(8)YCC施設運営

①貸館

施設管理の適正執行と利用料収入の増加に努めました。

利用料金収入は、ZAIM 撮影料金と併せれば昨年度並みの収入が見込まれます。また、YCCの事業趣旨に合う事業については、積極的に共催事業としてサポートしているほか、教育機関が利用者となる場合は施設料の減免を適用し、創造都市推進拠点として、また人が集い交流と発展の場となる利用の促進に努めました。

② ZAIM

平成21年3月までアーティスト・クリエイターやNPOの活動拠点として暫定活用されたZAIM(旧関東財務局・旧労働基準局)は改修工事を控えて利用を停止しています。しかし、古い建物のロケーション場所を探している多くの映像アーティストや制作会社のため、映像都市を標榜する横浜市の取り組みのひとつとして、改修工事に入るまでの期間、撮影活動に限って、利用を受け付けました。(本来閉鎖中の建物であり、消防法等の様々な制限もあることから、建物の維持管理、安全保持に支障のない範囲に限定しました。)

■撮影利用:55件

③設備投資等

- ・階段スペースの天井ガラス修繕
- ・1階インフォメーションスペース設置のための壁面工事

(9)運営体制

- ・公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
- ・臨時職員 2名
- ・専門アドバイザー(芸術不動産、プロモーション)2名
- ・「まちづくり」「産業集積」分野に関しては、横浜市創造都市推進課担当課長がディレクターを務め、同課職員と財団職員が共同して事業を実施しました。